南会津 長須ヶ玉山&大中子山 山行報告

【日程】 2016年4月9日(土)~10日(日)

【メンバー】CL 柘植 SL 斉藤(一) 吉瀬 澤田(路) 上茂 鶴田 小原(記)

【山域】南会津/長須ヶ玉山・大中子山

【行程】

- ・9日 佐惣沢出合(6:45)→長須ヶ玉山(11:00)→佐惣沢出合(14:00)
- ·10 日 牛首橋付近(6:45)→大中子山(11:50)→舟岐川(14:20)→牛首橋(15:00)
- *前夜発、道の駅たじまの一角をお借りし3時間仮眠、4時半起床。

4月9日 (晴れ) 長須ヶ玉山

道の駅より1時間半程の舟岐川沿いに駐車する直前まで見渡せる範囲の山には雪は見えず、雪山歩きではなくヤブ山歩きになるのでは?と思うほど。しかし取り付きの佐惣沢出合からは薄いが雪が辛うじてあり一安心。右岸から入り少し進むが、左岸の方が良さそうだと一旦下り、左岸から取り付きなおす。沢自体はごく小規模だが、渡渉しなくてはならない箇所が何度もあった。良い渡渉場所がなかなか無く、靴を脱いで・・・と一度声が上がったが、賛同する者はおらず。とはいえ雪の中ドボンなんてしたら死活問題である。足裏感覚が乏しい冬靴で慎重に足元を確かめながら、渋い渡渉をこなす。



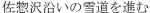


舟岐オートキャンプ場に駐車して出発

初っ端から結構ハードな渡渉

ミニスノーブリッジも所々あり 雪解けの始まった沢沿いは落とし穴だらけ、リーダーの力量で進むが、いつズッポリ落ちるかと気を使う。当初、沢の源頭部めがけ向かう予定だったが、途中から尾根にのった方が楽だろうと左方向に折れる事にした。







最初ほどハードではないが渡渉を繰り返す

尾根沿いを登り上げると平坦な広場のような場所となりサクサク歩けると思いきや、そこは罰ゲーム? ズボズボ地帯、ステップマシン並に歩いてもハマってしまうので、もうどうしようもない。山頂標識探 しを諦める事とした。



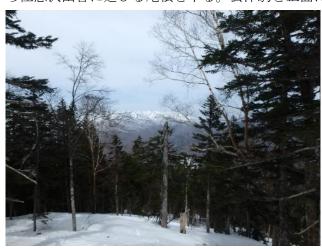


沢沿いを見切り、尾根に取り付く

どこが山頂か分からない長須ヶ玉山

※後日リーダー調べで尾根沿いの最初のピークが山頂だったとの事。ピークは踏んだという認識です

下山も沢筋をたどる予定でしたが、登りの時点で沢沿いの雪は崩れやすく状態が良くないため、山頂から佐惣沢出合に延びる尾根を下る。会津駒を正面に見ながらなかなか気持ちの良い下山路であった。



下山開始した尾根から会津駒方面の展望



下山途中で一休み(背後は長須ヶ玉山)



明るい展望の尾根を快適に下る



最後は少々のやぶを漕いで林道に飛び出る

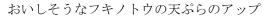
麓に戻り今夜のお楽しみ、あちこちにポチポチと芽吹いている愛らしいフキノトウを摘みながら車まで 戻る。摘み取った手は春の香り、いい匂い。夢中で摘み取り全員合わせたらこんなに食べきれるのだろ うか?という量になってしまった。入浴場所の駒の湯前にある JA に他の山菜目的で寄るが山菜はなく、 代わりに美味しそうなとても大きなお豆腐と分厚いお揚げを買い足し、今日の宴会場(とある公園)へと 急いだ。

天ぷら鍋を中心に銀マットを囲炉裏端状に敷きつめ準備は万端。お給仕する人、される人が何も言わずとも自動的に組分けされる。皆様ニコニコ^ 天ぷらが楽しみすぎます♪ 特にお給仕される方々はきちんと正座し、ふきのとう天ぷらが揚がるのをまだかまだかと目を輝かせ待ちわびる様子は、大変微笑ましい光景であった。年一の恵みを十分すぎるほど感じ、満腹すぎてお酒はいつもの半量以下だ。



100 C - 170 C

天ぷらはまだかな~





だいぶ回ってきました



渋い T さんのシルエット

真っ暗になる前に、テントに入り明日に備えていると、女性テント前から珈琲店の前でも通ったかのような香りが漂う、テント入口のファスナーを開けるとそこには、ランタンからの逆光でシルエットと化したその佇まいだけでも渋い T さんが、グァテマラのお粉をドリッパーで 1 杯ずつ丁寧に点てて下さっていた。少しお腹に隙間ができたので、寝酒でも・・と密かに女性陣は寝酒倶楽部の開店準備中だったのですが、その芳しい香りに開店する気もすっかり失せ、美味しいコーヒーでまったりいい旅夢気分、そのまま落ちるように眠りについた。

4月10日 (晴れのち曇り) 大中子山

4時半起床。昨日のごはんと豚汁でニャンコ飯、各自持参のカップ麺等で朝食を済ませる。 舟岐川、牛首橋横に駐車できるスペースがあり、そのすぐ脇から取り付き一ノ岐戸沢北側の尾根を行く。 こちらの山は昨日の長須ヶ玉山と川を挟んだ対岸側だが、取り付き付近に、雪は全くない。 しかし昨日の教訓より、わかんは持参する事にした。





取付きの急登をおえて傾斜が緩んだところ

かなり上部に至ってようやく雪が出てくる

笹、木の根を掴みかき分け這い上がる。序盤から顔は笹葉や枝で小傷だらけ。1550m あたりからようやく雪が付き出すが、ヤブと雪のミックスとなり疲れる。ヤブならでは?見たこともない奇妙な柄の木や、スパイス香の強い木、チョコにしか見えないような様々な動物の落し物で勝手に盛り上がり、おかげで懸念していたヤブ山歩きを楽しむことができた。

山頂手前は長須ヶ玉山と大変似ており広場状となっている、ズボズボ具合も同様。わかん装着で快適スノーハイク、昨日とは大違い。山頂も難なく発見できました。山頂標識は『大中子山』と『深跡』(明大ワンゲル 1967 年) と書かれた古いものが 2 つあり、山名が変わる事なんてあるのだろうかと謎を残したまま下山する。(後調べで、ガセでなければ『深跡』は三角点名との事。)



キャなご 大中子山の山頂



舟岐川に落込む尾根の末端を降りる

下山路は登りの尾根から2つ南側の尾根(深戸沢の南の尾根)から、舟岐川(渡渉は無理)に架かる数少ないであろう石橋にドンピシャたどり着き無事川を渡ることができました。



そこから、駐車スペースまではふきのとうロード、 おみやげ分も存分に摘み採れて大満足。

3年目にしてやっと参加できた山菜山行は、思っいた以上の大ヒット。リーダーが毎年楽しみにしいると言っていた事がよくわかりました。

ふきのとう・・・ 来年また会える日まで♪

小原貴子(記録)

舟岐川の堰堤